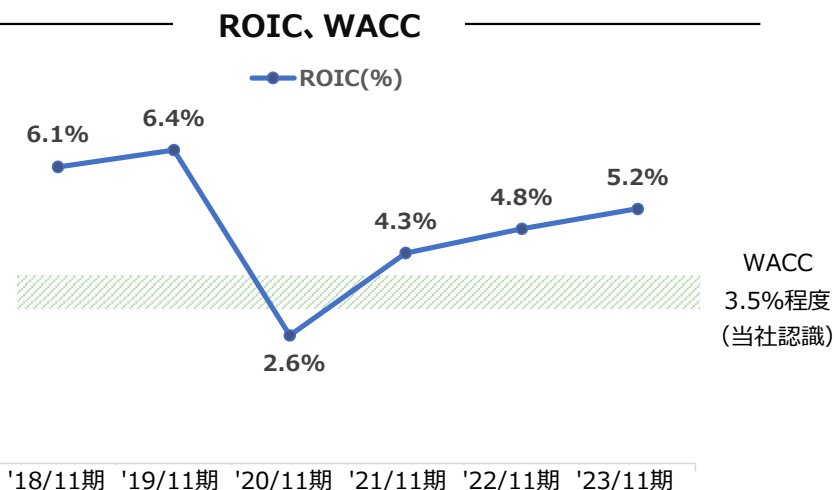
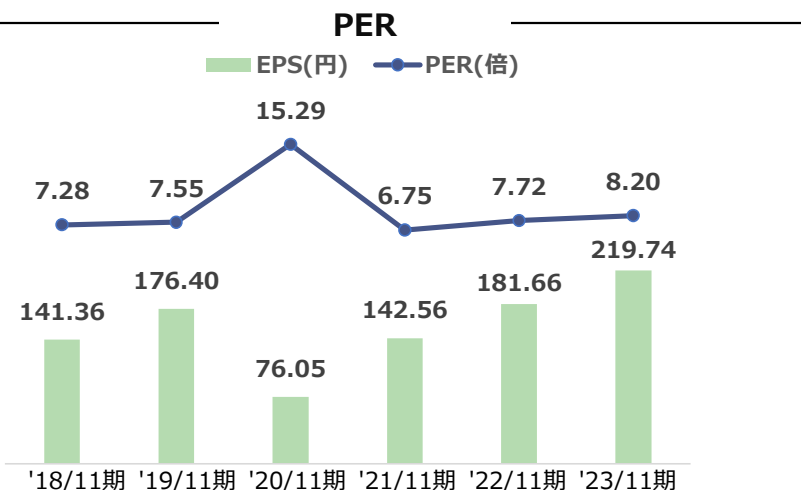
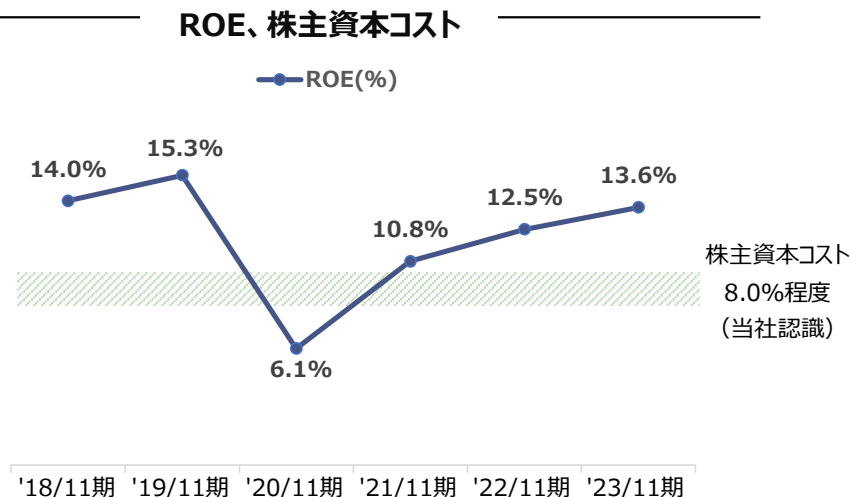
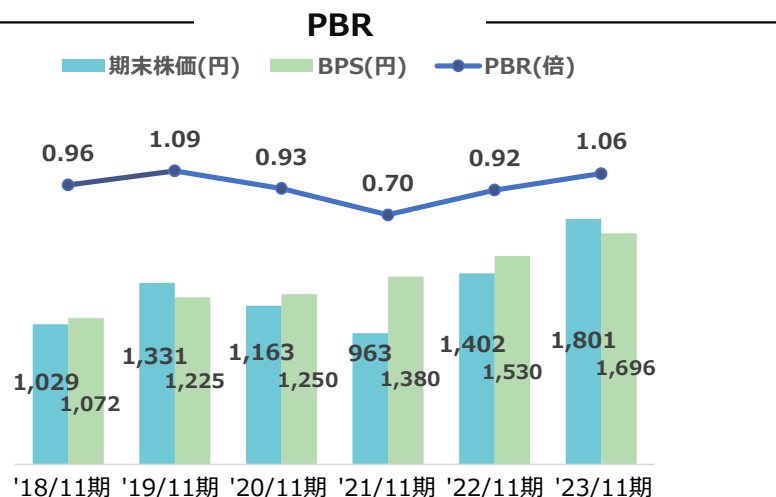
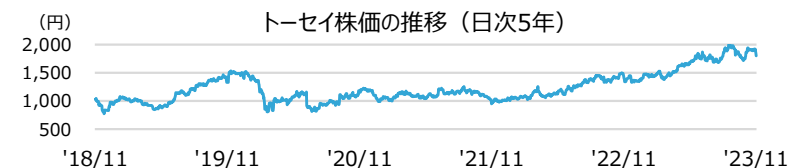


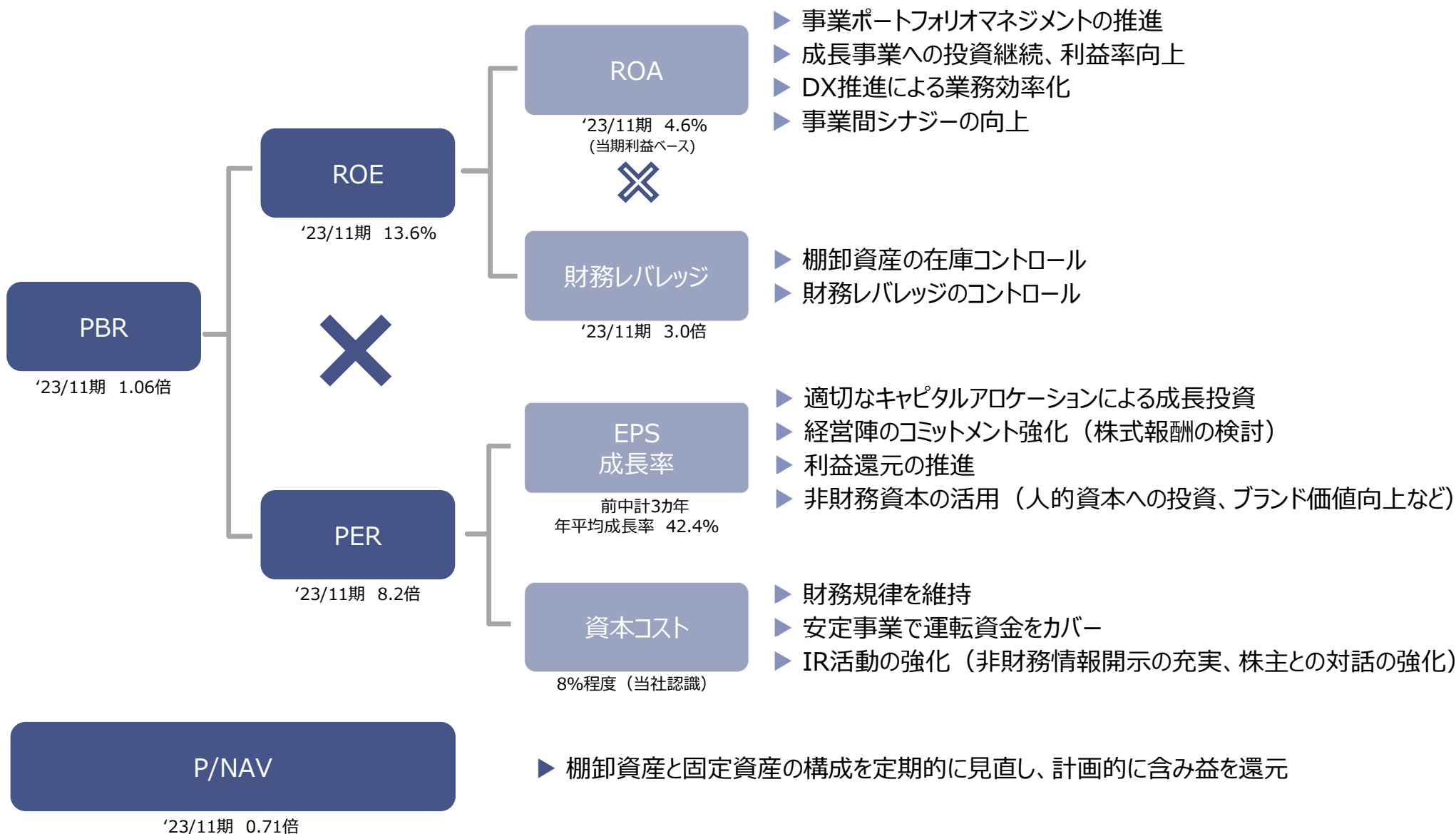
企業価値の構成要素の現状認識

- ▶ 足元、PBRは1倍を上回って推移
- ▶ ROEは、当社認識の資本コスト（8%程度）を上回るROE12～13%程度に回復
- ▶ PERは、当社の売買事業と安定事業からなるポートフォリオ経営への認知度が低く、市況に左右されるとの懸念から低位で推移



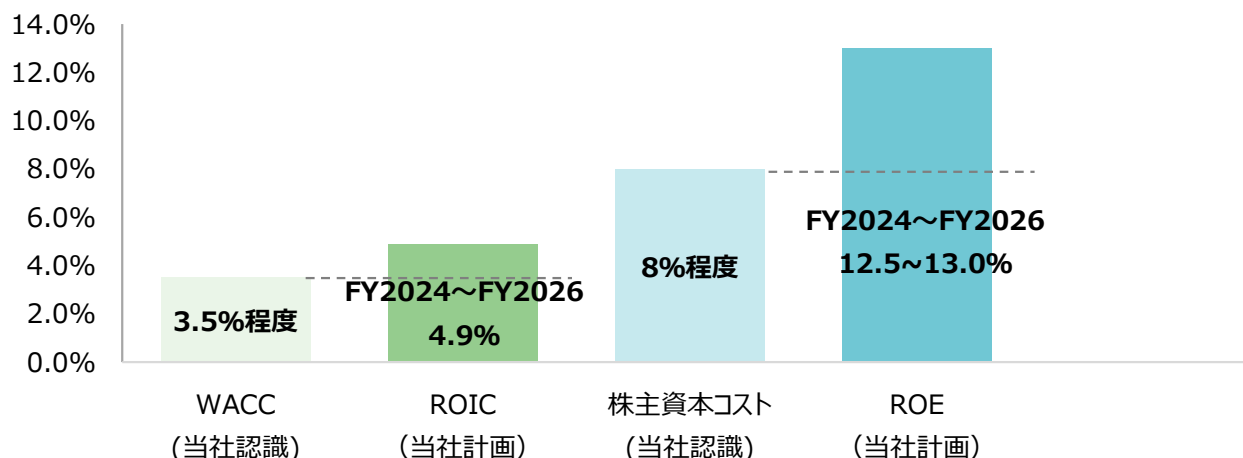
*1 当社認識の株主資本コストおよびWACCは、CAPMに基づき自社で算定
 *2 自社算定に使用した数値は次の通り。リスクフリーレート；各年度末時点の日本の10年国債利回り、β値；対配当込みTOPIX5年週次、マーケットリスクプレミアム；6.0%、有利子負債コスト；支払利息/各期首期末の有利子負債合計の平均

企業価値向上に向けた取り組み



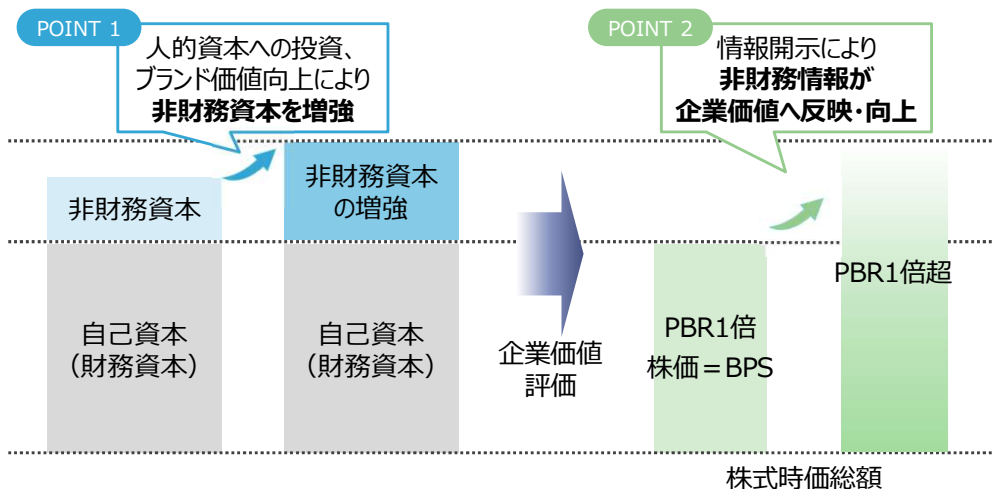
資本収益性の維持・向上

- ▶ 市場の期待リターンである資本コストを上回る資本収益性を維持
- ▶ 財務健全性や資本効率を追求しつつ、売買事業・安定事業のポートフォリオバランスを継続させる場合、ROEは12%以上の水準が適正と思料



非財務資本の増強と積極的な情報開示

- ▶ 人的資本への投資やブランド価値向上により非財務資本を増強
- ▶ 積極的な情報開示により企業価値の評価向上につなげる



NAVの増大

- ▶ 優良アセットの仕入拡大により固定資産を積み上げ、NAVを増加
- ▶ 棚卸資産⇔固定資産を定期的に見直し、計画的に含み益を還元

